

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

(備考)

- ・2023 年度より全学部・学科を対象に教育課程を変更。
3～4 学年（2019 年度課程）、1～2 学年（2023 年度課程）
- ・2024 年度配置の授業科目から、新旧課程で同一科目を記載（現代社会学部のみ新旧課程で分けて記載）。
- ・2023 年度より人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 心理コースに名称変更。
3～4 学年（旧名称）：人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・筑紫女学園大学 ホームページ 「実務経験のある教員による授業科目」
https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/personnel/jitsumu・筑紫女学園大学 ホームページ 「WEB シラバス」
https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/ <p>＊シラバス検索の際、キーワードに「実務経験」を入力し、検索。</p> |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

筑紫女学園大学 https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職) 公立大学学長	2023. 6. 1 ～ 2026. 5. 3	教務
非常勤	現職) 住職	2023. 6. 1 ～ 2026. 5. 3	総務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
毎年度、シラバスFDと「シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～」に基づき、前年度1月下旬頃を目途に授業計画(シラバス)を作成。第三者によるシラバスチェックを経た後、3月中旬にWEBシラバスとして、大学ホームページおよび学内ポータルサイトで公表している。 シラバスには、特に各学科・専攻が目指すDPと到達目標との紐づけを重視し、以下の項目について、授業方法や内容、成績評価等を掲載している。また、授業の進行状況等に応じて随時更新が可能で、到達目標に向けて学生の学修意欲を促している。 (シラバス内容) 【基本項目(事前設定項目)】 授業科目名、科目ナンバリング、担当教員、配当学年、単位数、開講年度学期、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)、この授業が目的としているDP、授業外学修時間 【入力項目(科目ごとに作成する内容)】 科目の目的と概要、到達目標、DP達成に向けて行う活動、関連する科目、授業に関する情報、授業計画(授業の回数/授業テーマと内容/授業外学修(予習復習含む。および想定時間)、定期試験の実施について、成績評価方法と評価基準、課題に対するフィードバックの方法、成績評価に関する留意点、アクティブ・ラーニング、ICT活用、授業に関する実務経験、オフィスアワー、教科書情報、授業に参考となるURL	
授業計画書の公表方法	大学ホームページ ・WEBシラバス https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/ ・「シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～」 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、学則第 21 条に「授業科目を履修した者に対しては、試験の上、所定の単位を与えるものとする」と定めている。また、「シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～」および「成績評価のガイドライン」にて成績評価基準や評価方法を記載している。各授業科目の学修成果は、これらの成績評価基準と併せて、シラバスに明示された成績評価の方法や基準により評価を行い、厳格かつ適正に単位授与や履修認定を実施している。

「成績評価のガイドライン」では、以下の項目について策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。

- ①シラバスの作成と閲覧
- ②成績評価（GPA 算出基準と算出方法）
- ③履修登録単位制限（CAP 制）
- ④単位と学修の量

なお成績評価結果に関する学生からの問い合わせの機会として、申請期間を設けている。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学生が履修を通じて必要な単位を修得するだけでなく、主体的で充実した学修を行うための制度として、GPAを導入している。

GPAは年間および半期ごとにその推移が数値とグラフで表示され、学生自身やアドバイザー教員、ゼミ教員が学内ポータルサイトの学修ポートフォリオで把握できるようにしている。学修ポートフォリオでは、その他の活動記録や外部テスト結果などと一緒に表示され、学生の学修計画や振り返り、自己管理に役立てることができる。

また、GPAの数値に応じて、退学の勧告やアドバイザー教員による学修支援を行う。

【成績評価・GPA (Grade Point Average)】

履修した科目の評価は5段階の評定とし、卒業に必要な単位を修得するためだけではなく、主体的にかつ充実した学びにするための制度として、GPA (Grade Point Average)を導入している。

■成績評価・GPA 算出基準

合否	評価	評点	グレードポイント
合格	秀 (S)	90～100 点	4.0
	優 (A)	80～89 点	3.0
	良 (B)	70～79 点	2.0
	可 (C)	60～69 点	1.0
不合格	不可 (D) (*1 欠席 *2 無資格を含む)	59 点以下	0.0

■GPA の計算式と対象

$$\begin{aligned} & (4.0 \times \text{秀の修得単位数}) + (3.0 \times \text{優の修得単位数}) \\ & + (2.0 \times \text{良の修得単位数}) + (1.0 \times \text{可の修得単位数}) \\ & + (0.0 \times \text{不可の単位数}) \\ & \hline & \text{総登録単位数} \end{aligned} = \text{GPA}$$

以下の科目は GPA の計算式の対象外となる。

- ・卒業単位に含まれない科目（教職などの特別課程科目）
- ・卒業単位に含まれる学外で行う実習科目
- ・他大学、海外研修、留学での履修科目
- ・資格取得による単位認定科目
- ・正課外活動による単位認定科目（「Social Project」、「Global Project」）

※1 試験を欠席した場合、評価は「欠席」となる。

※2 授業出席日数が不足している場合、評価は「無資格」となる。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	大学ホームページ https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1. 卒業の認定方針の策定・公表

本学では、各学科・専攻ごとに「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、大学ホームページで公表している。また、卒業の要件・学位について、「学修成果の評価と卒業認定基準」の中で同様に公表し、学生には「学生便覧」において示している。

卒業の要件、卒業の認定については、学則第 6 章「卒業及び学位」で定めている。

※学則第 28 条「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に基づき実施する。

2. 適切な実施に係る取組の概要

定められた方針に基づき、「学生便覧」には、各学科・専攻のカリキュラムマップを掲載し、ディプロマ・ポリシーと各配当学年の授業科目の関連を明示している。これにより、学生は授業科目とそれに結びつく学修成果を確認できるようにしている。

さらに、シラバスでは、授業科目が目指すディプロマ・ポリシーを表示し、「到達目標」とディプロマ・ポリシーの紐づけや、「DP 達成に向けて行う活動」の内容を記す項目を設置している。

卒業認定、学位授与はポリシーに従って適切に行われており、カリキュラム改編時など、ポリシーの更新があった場合には、大学執行部会議の審議を経て、教授会で報告を実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ
(ディプロマ・ポリシー 卒業認定・学位授与の方針)
https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf
(学修成果の評価と卒業認定基準)
https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	https://www.chikushi.ac.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ、刊行物） https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose
（概要） 文学部は、建学の精神に基づく確かな人間観を基盤として、多様な言語・文化を通して人間の生き方を学び、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもって社会の発展に貢献できる女性の育成を目的としています。 ・日本語・日本文学科 日本語・日本文学科は、日本語・日本文学・日本文化に関する専門知識を基盤に、豊かな確かな言語感覚と表現力、論理的な思考力を身に付けて、社会の幅広い分野で活躍できる女性の育成を目的としています。 ・英語学科 英語学科は、英語学や英語圏文学・文化に関する専門知識を基盤に、高度な英語コミュニケーション能力と他者に共感できる国際感覚を身に付けて、グローバル化する社会で活躍できる女性の育成を目的としています。 ・アジア文化学科 アジア文化学科は、言語、社会、文化の観点からアジアの多様な社会事情について多角的、体験的に理解を深め、広い視野と共感をもって、国際共生社会の実現に貢献できる女性の育成を目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物） ・卒業認定・学位授与の方針（DP）： https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf ・大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/ 【刊行物】 ・「学生便覧」：入学時に学生へ配付（および学内ポータルサイトにおいて公開）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針をディプロマ・ポリシーとして掲げ、卒業に必要な履修単位数を学則で公表している。 【文学部のディプロマ・ポリシー】 （日本語・日本文学科） （1）自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。 ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。 「市民としての社会的責任・勤労観」 （2）社会生活に必要な力を身に付けている。 ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。

「コミュニケーション・スキル」

②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。

「情報リテラシー」

③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。

「論理的思考力」

④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」

⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。

「幅広い視野」

(3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。

①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」

②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。「基礎的な専門性」

1. 日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。

2. 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。

3. 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。

(4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

(英語学科)

(1) 自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。

①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」

②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」

③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」

④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わるることができる。

「市民としての社会的責任・勤労観」

(2) 社会生活に必要な力を身に付けている。

①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。

「コミュニケーション・スキル」

②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。

「情報リテラシー」

③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。

「論理的思考力」

④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」

⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。

「幅広い視野」

(3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。

①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」

②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。「基礎的な専門性」

1. 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。

2. 英語の構造や成り立ちに対する理解に基づいて、それらの特徴を説明することができる。

3. 英語圏の文学や文化に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。

(4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

(アジア文化学科)

- (1) 自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。
- ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」
 - ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」
 - ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」
 - ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。
「市民としての社会的責任・勤労観」
- (2) 社会生活に必要な力を身に付けている。
- ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。
「コミュニケーション・スキル」
 - ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。
「情報リテラシー」
 - ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。
「論理的思考力」
 - ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」
 - ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。
「幅広い視野」
- (3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。
- ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」
 - ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。「基礎的な専門性」
 - 1. アジアの諸言語を用いてコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。
 - 2. アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。
 - 3. アジアの文化への共感と理解に基づいて、その特徴を具体的に説明・表現することができる。
 - 4. アジアへの理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。
- (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

教育課程の編成及び実施に関する方針をカリキュラム・ポリシーとして、公表している。筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としています。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立し女性を育成することを教育目標としています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めています。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」及び学部や学科の学びの特色によって配置された「学科等の専攻科目」により体系的に編成しています。教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DP と各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）を作成しています。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としています。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援しています。

授業形態には「講義」、「演習」、「実験」、「実習」、「実技」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めています。授業形態や単位修得に必要な学修時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学修時間の確保を促しています。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学修計画の一助としています。

（学修成果の評価の方針）

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「シラバス」により、DP と各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身に付けることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定しています。

それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行います。また、学生が十分な学修時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位 上限（CAP制）を導入しています。

（教育内容の点検・改善）

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしています。全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」及び「学生による DP 自己評価」を実施することにより点検・教育改善に活かします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

<https://www.chikushi-u.ac.jp/education/literature/japanese/policy>

<https://www.chikushi-u.ac.jp/education/literature/english/policy>

<https://www.chikushi-u.ac.jp/education/literature/asia/policy>

（概要）

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めています。

- ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

・日本語・日本文学科

- ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に

付けたい人「表現力」 ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人 1. 日本語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能力の向上を目指す人 2. 日本語や日本の文学、文化等に興味・関心を持っている人 3. 高等学校程度の国語を十分に学修し、古典に関しても興味・関心を持っている人 ・英語学科 ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」 ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」 ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」 ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」 ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人 1. 英語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能力の向上を目指す人 2. 英語圏の文学、文化等に興味・関心を持っている人 3. 高等学校の英語において十分な学習を修めている人 ・アジア文化学科 ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」 ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」 ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」 ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」 ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人 1. アジアの言語に興味を持ち、コミュニケーション能力を身に付けたい人 2. 多様なアジア社会に興味・関心を持ち、視野を広げたい人 3. アジアの文化に興味を持ち、学びたい人 4. 高等学校の社会の科目（世界史、地理、政治・経済、日本史など）において十分な学習を修めている人

学部等名 人間科学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ、刊行物） https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose （概要） 人間科学部は、建学の精神に則って、人間の生涯発達や生活を取り巻く諸課題に対する科学的認識を深め、その解決に向けて適切に対処するための実践的な知識と技術をもって、人間が互いに支え合って生きることを支援する社会づくりに貢献できる女性の育成を目的としています。 ・心理・社会福祉専攻（心理コース／社会福祉コース） 心理・社会福祉専攻は、人間の生涯発達及び人間と社会に関する科学的認識を基盤として、家庭や地域・職場などの生活場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもって、人間・社会支援に貢献できる女性の育成を目的としています。 ・初等教育・保育専攻（初等教育コース／幼児保育コース）

初等教育・保育専攻は、人間の生涯発達と心の働きに対する科学的認識を基盤として、子どもの発達を取り巻く場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもつ支援者として、人間・社会に貢献できる女性の育成を目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物）

- ・卒業認定・学位授与の方針（DP）：

https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf

- ・大学学則

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/>

【刊行物】

- ・「学生便覧」：入学時に学生へ配付（および学内ポータルサイトにおいて公開）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針をディプロマ・ポリシーとして掲げ、卒業に必要な履修単位数を学則で公表している。

【人間科学部のディプロマ・ポリシー】

（心理コース）

- （１）自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。
 - ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」
 - ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」
 - ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」
 - ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。
「市民としての社会的責任・勤労観」
- （２）社会生活に必要な力を身に付けている。
 - ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。
「コミュニケーション・スキル」
 - ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。
「情報リテラシー」
 - ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。
「論理的思考力」
 - ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」
 - ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。
「幅広い視野」
- （３）現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。
 - ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」
 - ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。
「専門的な職業人としての力」
 1. 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。
 2. 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。
 3. 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法を説明することができる。
- （４）社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

（社会福祉コース）

- （１）自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。
 - ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」
 - ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」
 - ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」

- ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。
「市民としての社会的責任・勤労観」
- (2) 社会生活に必要な力を身に付けている。
 - ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。
「コミュニケーション・スキル」
 - ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。
「情報リテラシー」
 - ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。
「論理的思考力」
 - ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」
 - ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。
「幅広い視野」
- (3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。
 - ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」
 - ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。
「専門的な職業人としての力」
 - 1. 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。
 - 2. 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。
 - 3. 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。
- (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

(初等教育コース)

- (1) 自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。
 - ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」
 - ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」
 - ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」
 - ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。
「市民としての社会的責任・勤労観」
- (2) 社会生活に必要な力を身に付けている。
 - ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。
「コミュニケーション・スキル」
 - ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。
「情報リテラシー」
 - ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。
「論理的思考力」
 - ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」
 - ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。
「幅広い視野」
- (3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。
 - ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」
 - ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。
「専門的な職業人としての力」
 - 1. 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。
 - 2. 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。
 - 3. 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。
- (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな

課題に向き合うことができる。「課題探究力」

(幼児保育コース)

- (1) 自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。
 - ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」
 - ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」
 - ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」
 - ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。
「市民としての社会的責任・勤労観」
- (2) 社会生活に必要な力を身に付けている。
 - ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。
「コミュニケーション・スキル」
 - ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。
「情報リテラシー」
 - ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。
「論理的思考力」
 - ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」
 - ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。
「幅広い視野」
- (3) 現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。
 - ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」
 - ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。
「専門的な職業人としての力」
 1. 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。
 2. 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。
 3. 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。
- (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物）
<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

教育課程の編成及び実施に関する方針をカリキュラム・ポリシーとして、公表している。筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としています。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立し女性を育成することを教育目標としています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めています。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」及び学部や学科の学びの特色によって配置された「学科等の専攻科目」により体系的に編成しています。教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DP と各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）を作成しています。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としています。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援しています。

授業形態には「講義」、「演習」、「実験」、「実習」、「実技」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めています。授業形態や単位修得に必要な学修時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学修時間の確保を促しています。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学修計画の一助としています。

（学修成果の評価の方針）

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「シラバス」により、DP と各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身に付けることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定しています。

それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行います。また、学生が十分な学修時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位 上限（CAP制）を導入しています。

（教育内容の点検・改善）

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしています。全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」及び「学生による DP 自己評価」を実施することにより点検・教育改善に活かします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

https://www.chikushi-u.ac.jp/education/human_sciences/psychology/policy

https://www.chikushi-u.ac.jp/education/human_sciences/social_welfare/policy

https://www.chikushi-u.ac.jp/education/human_sciences/human_formation/policy

https://www.chikushi-u.ac.jp/education/human_sciences/child_care/policy

（概要）

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めています。

- ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

・人間科学学科 心理・社会福祉専攻 心理コース

- ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」

④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

1. ひとの心の仕組みについて、科学的に探求したい人
2. ひとの心を理解するため、そのひとに寄り添って共に成長したいと願っている人
3. 高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、倫理など）において十分な学習を修めている人

・人間科学学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース

①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」

②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」

③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」

④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

1. 社会の様々な問題や課題への関心を持ち、人間に共感する感性を持っている人
2. 人間が人間らしく生きられる公正な社会の実現に関心を持ち、その担い手になりたいと考えている人
3. 高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、倫理など）において十分な学習を修めている人

・人間科学学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース

①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」

②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」

③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」

④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

1. 人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
2. 子どもの成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
3. 高等学校のすべての学習に、積極的に取り組んでいる人

・人間科学部 人間科学学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース

①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」

②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」

③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」

④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

1. 人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
2. 子どもの成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
3. 高等学校のすべての学習に、積極的に取り組んでいる人

学部等名 現代社会学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ、刊行物） https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose
（概要） 現代社会学部は、建学の精神に基づく豊かな人間性と幅広い教養を基盤として、社会学の基礎を学び現代社会を理解し、問題を発見し的確に分析して解決を図る能力を有するとともに、コミュニケーション能力とリーダーシップを持った職業人として多様な場において社会の発展に貢献できる女性の育成を目的としています。 ・現代社会学科 現代社会学科は、社会学の基礎理解と「社会デザイン」の考え方・スキルの修得を踏まえ、キャリアに関する科目と現代社会を理解する上で必要な人間文化・地域繁栄・地球環境・平和共存・パートナーシップに関する科目を合わせて学び、問題解決力、コミュニケーション能力、リーダーシップを持った職業人として多様な場において社会の発展に貢献できる女性の育成を目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物） ・卒業認定・学位授与の方針（DP）： https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf ・大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/ 【刊行物】 ・「学生便覧」：入学時に学生へ配付（および学内ポータルサイトにおいて公開）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針をディプロマ・ポリシーとして掲げ、卒業に必要な履修単位数を学則で公表している。 【現代社会学部のディプロマ・ポリシー】 （現代社会学科） （１）自己と向き合い、社会人として生きる力を身に付けている。 ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 ④社会の一員としての意識を持ってその発展に関わることができる。 「市民としての社会的責任・勤労観」 （２）社会生活に必要な力を身に付けている。 ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。 「コミュニケーション・スキル」 ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 「情報リテラシー」 ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 「論理的思考力」 ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 「幅広い視野」 （３）現代社会を生きる自己を実現するための力を身に付けている。 ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 ②一定分野または特定分野の知識・技能を獲得している。「基礎的な専門性」 1. 社会学分野及び現代社会の特定分野の基礎的な知識・技能を身に付けている。

2. 現代社会の諸問題に対して、さまざまな視点から考えることができる。 3. 社会現象を調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 4. 社会における実践的な活動の中で、自らの知識を深めることができる。 5. 社会に対して、自らの発見を効果的に発信するための基礎的な知識・技能を身に付けている。 6. 社会の課題について常に学び続け、その成果を社会に還元するために必要な知識を身に付けている。 (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身に付けている。 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ、刊行物） https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf
(概要) 教育課程の編成及び実施に関する方針をカリキュラム・ポリシーとして、公表している。筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としています。 筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立し女性を育成することを教育目標としています。 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めています。 (教育課程の編成) 本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」及び学部や学科の学びの特色によって配置された「学科等の専攻科目」により体系的に編成しています。教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DP と各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）を作成しています。 (教育の実施・教育方法) 各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としています。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援しています。 授業形態には「講義」、「演習」、「実験」、「実習」、「実技」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めています。授業形態や単位修得に必要な学修時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学修時間の確保を促しています。 各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学修計画の一助としています。 (学修成果の評価の方針) 本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「シラバス」により、DP と各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身に付けることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定しています。 それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行います。また、学生が十分な学修時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位 上限（CAP制）を導入しています。

(教育内容の点検・改善) 教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしています。全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」及び「学生による DP 自己評価」を実施することにより点検・教育改善に活かします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ） https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy https://www.chikushi-u.ac.jp/education/social/policy
(概要) 筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めています。 ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」 ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」 ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」 ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」 ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人 ・現代社会学科 ①高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」 ②主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」 ③身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」 ④自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」 ⑤入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人 1. 自分の周囲にある様々な社会問題の解決を目指したい人「課題解決への志向」 2. 現代社会を理解することに興味があり、調査・分析能力を身に付けたい人「調査分析力」 3. 高等学校の社会科科目において十分な学習を修めている人「基礎的な社会科学的知識」

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ 教育研究上の組織、教育研究上の目的 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人

文学部	－	20 人	11 人	4 人	0 人	0 人	35 人
人間科学部	－	16 人	16 人	4 人	0 人	0 人	36 人
現代社会学部	－	8 人	5 人	1 人	0 人	0 人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		182 人					182 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページ https://www.chikushi-u.ac.jp/about/scholarship/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では学修者本位の教育達成を目指し、毎年度 FD/SD 事業の方針を定めている。この方針に基づき、FD/SD 研修会を設け、教育と支援の質向上に努めている。							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	270人	153人	56.7%	1076人	776人	72.1%	8人	0人
人間科学部	280人	217人	77.5%	1160人	1013人	87.3%	若干名	3人
現代社会学部	120人	53人	44.2%	560人	292人	52.1%	若干名	0人
合計	670人	423人	63.1%	2796人	2081人	74.6%	8人	3人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数					
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
文学部	262 人 (100%)	7 人 (2.7%)	207 人 (79.0%)	48 人 (18.3%)	
人間科学部	281 人 (100%)	10 人 (3.6%)	250 人 (89.0%)	21 人 (7.4%)	
現代社会学部	116 人 (100%)	1 人 (0.8%)	96 人 (82.8%)	19 人 (16.4%)	
合計	659 人 (100%)	18 人 (2.7%)	553 人 (83.9%)	88 人 (13.4%)	
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)					
(備考)					
c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内	留年者数	中途退学者数	その他

		卒業・修了者数			
文学部	295 人 (100%)	235 人 (79.7%)	14 人 (4.7%)	23 人 (7.8%)	22 人 (7.5%)
人間科学部	313 人 (100%)	274 人 (87.5%)	7 人 (2.2%)	19 人 (6.1%)	12 人 (3.8%)
現代社会学部	129 人 (100%)	107 人 (82.9%)	5 人 (3.9%)	4 人 (3.1%)	8 人 (6.2%)
合計	737 人 (100%)	616 人 (83.6%)	26 人 (3.5%)	46 人 (6.2%)	42 人 (5.7%)
(備考)「その他」は休学により在学期間を満たしていない者(卒業延期者)。上記以外に、文学部1名、人間科学部1名、現代社会学部5名が除籍となっている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全授業科目に対してシラバスを作成し、その中に授業の方法、内容、年間の授業計画を掲載し、大学のホームページ(WEBシラバス)で公表している。 また、授業の開講期間は年間の学事日程として、毎年学生に配布する「Courage(クラージュ)」という刊行物で周知している。 シラバス(授業計画)の作成の流れは以下の通り。 1. 毎年度、「シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～」を作成 2. シラバスFDを実施し、ガイドラインの詳細を周知 3. 毎年度、1月下旬までを目途にシラバス作成 4. 第三者によるシラバスチェックの実施 5. 3月中旬ごろより、大学ホームページで公表
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 次のとおり大学ホームページで公表している。 ・学修成果の評価と卒業認定基準について(「成績評価のガイドライン含む」) https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・ディプロマ・ポリシーについて https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/diploma_policy.pdf ・学則(令和5年度) https://www.chikushi-u.ac.jp/about/regulation/ 本学では、各学科・専攻ごとに「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定め、大学ホームページで公表している。また、卒業の要件・学位について、「学修成果の評価と卒業認定基準」の中で同様に公表し、学生には「学生便覧」において示している。 卒業の要件、卒業の認定については、学則第6章「卒業及び学位」で定めている。 ※学則第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に基づき実施する。 (「学生便覧」：入学時に学生へ配付、および学内ポータルサイトにおいて公開) また、「成績評価のガイドライン」においては、以下の項目について策定し、単位授与又は
--

履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。 ①シラバスの作成と閲覧 ②成績評価（GPA 算出基準と算出方法） ③履修登録単位制限（CAP 制） ④単位と学修の量				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	124 単位	有	単位
	英語学科	124 単位	有	単位
人間科学部	アジア文化学科	124 単位	有	単位
	人間科学学科 心理・社会福祉専攻 心理コース	124 単位	有	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		人間科学学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	720,000 円	150,000 円	240,000 円	
	英語学科	720,000 円	150,000 円	252,000 円	
	アジア文化学科	720,000 円	150,000 円	240,000 円	
人間科学部	人間科学科				
	心理・社会福祉専攻	720,000 円	150,000 円	240,000 円	
	人間科学科 初等教育・保育専攻	750,000 円	150,000 円	260,000 円	
現代社会学部	現代社会学科	720,000 円	150,000 円	240,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 【学習に関する支援】 ◎入学前教育 全入学予定者対象に、スムーズな大学での学びへの移行や不安解消を目的とした入学前教育を実施している。外部テストの実施や、大学作成のワークシート作成などを実施し、さらには初年次教育、授業「基礎ゼミナール」での活用へと一連の流れを作っている。 ◎履修指導 授業開講前に履修登録オリエンテーションを実施し、年度ごとにより具体的な履修の情報を提供し、支援している。また、正課内外の活動について、目標や活動記録、成績や振り返りを記載する「学修ポートフォリオ」では、ゼミ担当等教員のコメントによるアドバイジングもあり、学修の計画をはじめ、大学生生活全般の充実に役立てることが出来る。 ◎オフィスアワー 各教員が設定したオフィスアワーの時間はシラバスに掲載されており、学生は予約なしで研究室を訪ね、学修や学生生活について指導や助言を受けることが出来る。 ◎学生ポートフォリオ 学生用ポータルサイトに、学生一人ひとりの学修の状況が分かるメニューがあり、学生自身がいつでも学びや活動記録を入力し、単位修得状況・外部テスト結果・先生からのコメントなどを確認することで、自身の学びを振り返りながら効率よく便利に学びを進めることができる。 【ピアサポート】 ◎チューデントアドバイザー 学生が談話や休憩、自習などに使うことができるスペースとして、キャンパス内に「Student Room」を設置している。講義の準備やレポート作成のために無料で使える印刷機や文具を備えている。「Student Room」には、チューデントアドバイザー (SA) という学生スタッフが常駐しており、設備の管理や学生の相談相手になっている。 ◎LC スタッフ 図書館内にあるラーニングコモンズにおいて、学生の学修を支援する学生

スタッフ。レポートの書き方や基礎的な学修講座、試験対策などの学修に関する企画を行うほか、常時学生からの相談にも対応している。

◎学生図書委員

図書館をより良いものにするための学生団体。学生が本を選びにいく選書ツアーや他大学の図書館を見学に行ったり、館内展示を工夫したりといった活動を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

学科・コース担当者を固定し、就職活動の開始に際して全学生と個人面談を実施し、学生の背景や希望を把握したうえで相談・助言などの支援にあたっている。その他、一般企業向けの業界研究や採用試験対策、公務員講座対策、教員採用試験対策（初等・中等）、社会福祉士等の国家試験対策等、其々の進路選択に応じた本学のオリジナルプログラムを提供している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

◎保健室

看護師資格を有する職員が常駐し、健康検診をはじめ、応急処置、健康相談、保健指導、医療機関への紹介を行っている。

◎学生相談室

専門の知識を有する専任教員を室長とし、精神科医、臨床心理士の資格を有するカウンセラーを置き学生相談を行っている。

◎学生サポートルーム「ラトナ」

障がいがあるなどの理由により、さまざまな悩みや相談事のかかえる学生の相談・支援窓口として学生サポートルーム「ラトナ」を設置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/education_system

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110794
学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		374人	374人	376人
内 訳	第Ⅰ区分	227人	225人	
	第Ⅱ区分	95人	96人	
	第Ⅲ区分	52人	53人	
	第Ⅳ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				1人
合計（年間）				377人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	3人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	2人	人	人
計	5人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	32人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	32人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。